第 370 号　　生徒さん・ご家庭・先生をむすぶ新聞

とらいあんぐる

2023 年 3 月

一音会ミュージックスクール発行

「こわい話」

季節はずれの怪談をしようとしているわけではありません。「あの時、あぶなかったな～」という経験は、誰しもあるでしょう。私にも、そんな経験があります。

その経験が特殊なので、正直、それが誰かのための教訓になると思っていませんでした。

いいえ、正直にいうと、あまり思い出したくない話なので、忘れていました。

しかし最近、元総理が狙撃された事件をきっかけに、宗教にまつわるトラブルが次から次と報道されるようになりました。今まで、ほとんどの人が知らなかった不幸な真実があかるみになりまさに“パンドラの箱”です。

私の記憶のふたも、突然、開きました。

ただの私の昔話としてきいてください。「あの時、あぶなかったな～」という話です。

でも、私の経験が、今後を生きる誰かに警告として生きることがあれば良い。そんな気持ちも、少しあります。

私が大学に入ったばかりの頃のことです。多くの一年生は、まだサークルを決めておらず、サークル勧誘が活発な

時期でした。私も、おもしろそうなサークルを探す一人でした。

大学の壁には、サークル勧誘のポスターがたくさん貼ってありました。各サークルの説明会が、連日、昼休みや授業終了後に開かれ、ポスターはその情報でいっぱいでした。

その中で、私が気になったポスターがありました。

柔道着のような服を着た男性が、座禅を組んだまま、宙に浮いています。明らかにトリック写真だと思いました。

でもポスターには「説明会で宙に浮いて見せる」と書いてあるのです。

後に「奇術愛好会」という手品のサークルに入る私は、当時、手品に強い関心がありました。

人の身体を宙に浮かせる手品は、どちらかというとありふれた手品です。

しかし、舞台のように装置を仕込める場所でなければできません。

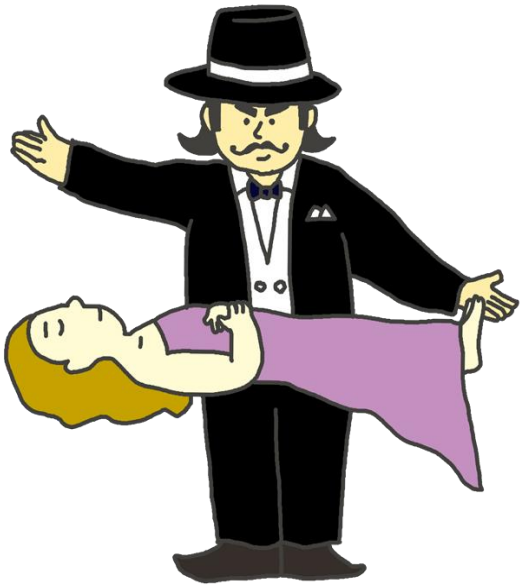
説明会の場所は、私もよく知る講義室でした。普通の教壇しかないので、手品の装置を仕込むのは無理です。

「あの部屋で、どうやってやるんだろう？」

私の知らない手品のタネがあるのかもしれないと思うと、ものすごく見に行きたくなりました。

一人で行くのは気がすすまないので友だちを誘いましたが、仲の良い友だちは皆、同じ時間、別のサークル説明会に行きたいため、結局、一人で行くことになりました。友人は、「あとでタネだけ教えてね」といって笑っていました。

今、思うと、これが間違いのはじまりでした。



結局、私は手品を見ることができませんでした。

話をきくかぎり、ただのヨガのサークルのようでした。話の内容は、あまりおぼえていません。

最後になって、「今日は、宙に浮かぶことはしないけれど、見たかったらここに来てください」と地図を渡されました。

地図に示された場所は、杉並区でした。大学のそばでもなんでもありません。大学の中で活動できるサークルを探しているのに・・・。とんだ時間の無駄でした。

わざわざ杉並まで行くほどの関心はありません。手品自体は、ありふれているのです。教室でやるというから興味がわいたにすぎません。私は詐欺にあったような気分になっていました。

「あーあ・・・」

これで話は終わるはずでした。

ですが、その日から、やっかいなことがおこります。

夕方、大学構内を歩いていると、ある女性から声をかけられます。知らない人です。

「あら？　元気？」

誰だか分からず、私が返事に困っていると、

「おぼえてない？　ほら？　あの日、説明会に来てくれてたじゃない？」

あのヨガサークルの説明会で会った人のようです。いわれても思い出せないのですが、「ああ、あの・・・」と、なんとなく思い出したような、あいまいな返事をします。

彼女は笑顔で、「もう大学、慣れた？」といった質問をしてきます。

「この大学の先輩なのかな？」と思います。

少し会話をして、別れました。

その後、その女性に、何度も会うのです。２日に１回は、かならず会います。多い日は１日２～３回、会いました。

私が一人の時は、かならず声をかけてきて「元気？」「今日はあったかいね」

「またね！」など、短い会話をします。私が友人と一緒の時は、笑顔で会釈してきます。

その時は、「よく会うなあ」くらいしか思っていません。

そんな日が１か月くらい続き、さすがの私も「これは変だ！」と思うことがおこります。

ある日、大学からの帰り道、乗り換えのある渋谷駅で、あるファッションビルに入り、少し買い物をしました。その後、山手線に乗り、池袋駅で降り、東口にある本屋さんに寄り、時間を使いました。

ヒマなので、ぶらぶらしています。この時点で、大学を出てから２時間以上経っています。

その後、西武線に乗り、椎名町駅で降りました。

私の家は、駅から徒歩１０分ほどの住宅街の真ん中にあります。周囲にお店は何もありません。

家まであと３～４分ほどのところを歩きながら、「ああ、駅前のドラッグストアに寄ればよかったな～」などと思っていました。「明日でいいかな～。でも今日はヒマだから戻ろうか・・・」と思いつつ、急に振り返った私の正面、８メートルくらい先に、例の女性がいたのです。

私はびっくりしました。

例の女性は、もっとびっくりしていました。

住宅街の真ん中です。身をかくすところはありません。

まさか私が振り返るとは思わなかったのでしょう。

とっさに逃げようとした女性に、声をかけたのは私のほうです。

「どうしてここに？！」

詰問口調になってしまうのを、自分でも止められません。

大学からかなり離れた椎名町で会うことも不自然ですが、住宅街の真ん中に、何の用事があるというのでしょう？

その女性は、この近所に家庭教師をしているおうちがあるのだ、というようなことを、しどろもどろに答えましたが、声がふるえて、よくききとれません。

何をそんなにおびえているのか、私はさっぱり、分かりませんでした。

偶然、私を見つけたなら、なぜ声をかけないのでしょう？　私の姿が見えていなかったはずがありません。他に歩いている人が、ほとんどいないのですから！

ようやくここで、「私のあとをつけていたのだ」と確信しました。

大学を出て、すでに２時間以上、経っています。

ずっとつけていたのでしょうか。考えると不気味です。

思えば、今日だけではなかったのかもしれない・・・この１か月、何度も出会うのは、たまたまなんかじゃなかったのかもしれない・・・。

その女性の意図が分からず、私はひどく混乱していました。私なんかのあとをつけて、何の得があるんだろう？

考えてみれば、私はその女性の名前

も所属も知りません。いつも出くわすのは、建物の外です。教室の中や廊下で会ったことがありません。学生ではないのかも・・・。

思い返すと、いろいろおかしな点に気づきます。大学生にしては、少し年齢が高いように見えます。

いつの間にか、女性はいなくなっていました。逃げるように去ってしまっていたのです。何もかも不自然です。

私は、走って家に駆け込みたくなる気持ちをおさえ、家とは別方向に走り目白通りに出てバスに乗り、適当なところでタクシーに乗りかえ、家に帰ったのでした。

「まかなくては」と必死でした。理由はまったく分かりませんが、自宅を特定しようとしているとしか考えられなかったからです。

翌日、この体験を友人数人にきいてもらいました。

友人たちは、いろいろな意見を出してくれましたが、誰の推理も正解にたどり着けていないことが、お互いによく分かりました。

夜になって、私が「Mちゃん」と呼ぶ友人が電話をかけてきました。

Mちゃんは、昼間、私の話をきいてくれた一人でしたが、何か重大な問題がひそんでいるように思い、私の体験談を自分のお兄さんに伝えようとしたそうです。Mちゃんのお兄さんは、私たちと同じ大学の三年生でしたので、入学したばかりの私たちよりも、ずっと学内のことに知識があります。

お兄さんは、話の冒頭でMちゃんの話を止め、「これは、オレの手におえない。オヤジの前で話をしてくれ」と、すぐにMちゃんの手をひっぱってお父さんの書斎に行き、Mちゃんはお父さんとお兄さんの前で、私の体験談を話すことになったらしいのです。

「それでね。うちの父が、どうしてもアヤちゃんに直接、話がしたいというんだ。何の話か、私も分からないんだけど、ごめん。ちょっと父と話をしてくれ

る？　急いでるみたいなの」

私はものすごく緊張してしまいました。

こんなおおごとになるなんて！

不思議な体験だったので、ちょっと友人にきいてもらうくらいのつもりが・・・。

「Mから話はききました。昨日、尾行に気づかれたことで、局面が動きました。残念ですが、もうご自宅は特定されてしまったかもしれません。ねらいはあなただと思います。ご家族のことも心配でしょうが、あなた一人だけでもどこか別の場所に住まいを移せませんか？　理想をいえば、留学です。やつらは海外まで追う力がありません」

突然の話に、どこからつっこんで良いか分かりませんが、まずはききました。

「やつらって、誰ですか？！」

Mちゃんのお父さんは、きいたこともない団体名をいいました。宗教団体だそうです。

なんか、かわいらしい名前だなあと、ぼんやり思いながら、とりあえずはっきりいえることだけお返事することにしました。

「残念ながら、留学は無理です。考えたこともありません」

Mちゃんのおうちはお金持ちでしたが、私の家は平均的なサラリーマン家庭です。まず経済的に不可能であること。加えて、一歩も歩けない母の介助をして暮らしているので、たとえ国内であっても自宅から離れられないこと。事実をそのまま伝えました。

お父さんは、こうききました。

「あなたのご家庭の事情は、あなたの周囲の人も知る情報ですか？」

「はい、友だちはみんな知っています。かくすことでもありません。Mちゃんも、もちろん知っています」

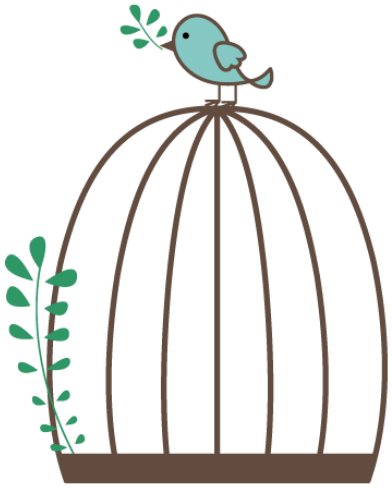
お父さんは、そこで黙ってしまいました。

電話なので、表情が見えません。

私に同情しているのだろうと思っていました。

でも、全然ちがいました。お父さんは、考えこんでいたのです。

「あのね。これは私の想像ですが、あなたが逃げられない状況にあることをすでにやつらは知っていると思います。あなたに執着する大きな理由が分かった気がします」



お父さんは、「うーん・・・」と、うなりはじめました。真剣に考えていらっしゃいます。

一方で私は、「おおげさだなー」と思っていました。このへんが、人生経験の少なさです。

お父さんの提案は、「大学からの帰り道、絶対に一人で帰らないこと」というものでした。そして、一緒に帰る人は、できれば男性が良い、と。

「協力者がいなければ、私の息子がお手伝いします」

次の瞬間、Mちゃんのお兄さんが電話をかわり、「ぼくでよければ、お力になりますよ」といってくださいました。

法学部にいるお兄さんは、お父さんの考えがよく分かっているようでした。

でも、事の重大性がまったく分かっていない私は、丁重に丁重に、お断りをしました。

Mちゃんのお兄さんは三年生なのでキャンパスが本郷、私は一年生なので駒場。帰りにおくってもらうには、物理

的にも無理がありました。

それに、渋谷でお買い物をしたり、池袋の大きな本屋さんで新刊チェックしたりすることは、当時の私の大きな楽しみでした。寄り道ができなくなるのはイヤでした。

私が事態をちゃんと理解できていないことは、お父さんにはお見通しだったと思います。

再び、お父さんが電話に出ました。

私を気づかい、いつでも、どんなに小さなことでも相談してくださいと、繰り返し、おっしゃいました。

そして最後に、ため息をつきながらおっしゃった言葉は忘れられません。

「私がいっていることを、あなたはおおげさだと思っていらっしゃるでしょう？　これがおおげさではないことに、あなたはいつか、気がつくかもしれません。気がつかないままかもしれません。あなたが気がつく日が永遠に来ないことを、私は祈っています」

Ｍちゃんのお父さんが警察官僚であることは知っていましたが、公安の人であることを知ったのは、その日でした。

その日から約８年後の１９９５年３月２０日の朝、大学院博士課程に進学していた私は、大学に行くために、地下鉄丸ノ内線に乗ろうとしていました。

私が地下鉄に乗る直前、Ｍちゃんのお父さんが「やつら」と呼んだ、かわいらしい名前の団体が、およそかわいらしくない事件をおこします。

とうとう地下鉄にサリンをまいたのです。

１４人の死者と６３００人の負傷者を出し、化学兵器を使った無差別テロは、当時、世界にも例がなく、日本の犯罪史に深く刻まれた事件となりました。

そしてその日は、Mちゃんのお父さんがおおげさではなかったと、私が思い知った日でもあります。

日本の優秀な警察組織の中でも特に優秀な公安が、８年前にすでに、はっきりマークしていたにもかかわらず、惨事を防げなかったことも、私には衝撃でした。

実行犯も、団体の幹部も、私と同世代です。

私が大学生だった頃、私の大学にかぎらず多くの大学で、サークルにまじって、その団体が連日、学生を勧誘していました。大学時代に勧誘され、取り込まれてしまった人がとても多かったときます。

特に凶悪でもない、ふつうの大学生だったことでしょう。空中浮遊が見たくて説明会にのこのこ行ってしまった私は、その時点で彼らと同じです。

有名大学に入り、恵まれた人生をおくるはずの彼らが、まさか死刑台にあがることになろうとは！

ああ、あそこが岐路だったのか。

今なら、はっきり分かります。

生きていくことは、こわいことです。

私の年齢になっても、そう思います。

いいえ、この年齢になったからこそそう思うのでしょう。

このこわい話が、誰かの役に立つかもしれません。役に立たないかもしれません。

役に立つ日が永遠に来ないことを、私は祈っています。

（江口　彩子）

◆「ピアノ・トライ」、「ル・コンセール」、「フォルテの会」が、無事、終了しました

１月、２月は、例年、イベント続きです。

今年は、久しぶりにコロナの影響も少なく、すべての会が盛会でした。たくさんの生徒さんにご参加いただき、たくさんのご家族の皆さまにご協力をいただきました。本当にありがとうございました。

コロナは幸い、波が去りつつありますが、これからもまた、何度も波が訪れるのかもしれません。でも、小さな波の時も、大きな波の時も、皆さまのご協力で、安全に開催できることが証明され、私どもは安堵しつつ、感謝の気持ちでいっぱいです。どうかこれからもよろしくお願いいたします。

◆「第１７回ジュニア・コンサート」を開催します

先号でもお知らせしましたように、「ジュニコン・オーディション」を、リモートでおこないます。３月２１日（祝）、午後１時より、「ひびきホール」でオーディションをおこない、その際の演奏を撮影させていただきます。動画をプリドノフ先

生ご夫妻が観て、審査をおこないます。

「ジュニコン・オーディション」の結果、選抜された生徒さんによる「ジュニア・コンサート」を、４月２８日（金）夕方、大泉学園「ゆめりあホール」で開催いたします。

追って、ポスター等で、詳細をお知らせいたします。感染防止につとめ、安全な開催をお約束いたしますので、どうぞ皆さま、足をお運びください。じゅうぶんな広さと客席数のホールです。来場制限はいたしません。

ゆめりあホール

◆新年度時間割をお組みしています

新年度希望表のご提出に、ご協力をありがとうございました。現在、みなさまからお出しいただいた希望表をもとに、４月からのレッスン時間割を作成しております。

曜日、時間帯、コースについて、変更を希望された方の多くには、時間割に関す

るご相談のメールやお電話を差し上げているところだと思います。少しでも、お一人お一人の生徒さんのご都合にかなう時間割となるよう、努力を続けております。

しかし、物理的にご希望をかなえることが難しい場合もあり、その点は、どうかご理解ください。

たとえば、曜日や時間帯を変更される場合、以前からその日時にレッスンを受けていらっしゃる生徒さんが優先されます。そのため、「そのままの担当で」とご希望をいただいても、同じ担当でお組みできるとはかぎりません。

お忙しいご家族の方が増えていると感じますため、できるかぎりお電話ではなくメールで、用件をお伝えしたいと思っております。ただ、お使いの端末が未登録のアドレスからのメールをブロックしてしまったり、迷惑メールとして処理してしまったり、ということがあります。迷惑メールのフォルダを定期的にチェックしていただけますと幸いです。

メールが届かない場合や、なかなかご返信がいただけない場合は、お電話をさしあげることもございます。お留守だった場合、留守番電話の設定をしてくださっている方には、極力、メッセージを残すようにしています。お手数ですが、ご確認をお願いいたします。

また、最近は留守番電話の設定をしていらっしゃらない方も多く、なかなか用件をお伝えできない場合もあります。着信をごらんになって、可能なら本部まで折り返しお電話いただけますと、たいへん助かります【本部：03－5966－7711】。

メールでも電話でも、先にご連絡がついた方から、ご希望が通る形になります。

同じ時間帯、同じ担当で希望される生徒さんが２人以上いらした場合、同じ条件であれば先に連絡をくださった方から決まっていきますこと、ご了承ください。お忙しい中、申し訳ございませんが、何らかのご返信を、おはやめにいただきたいと思っております。ご協力をよろしくお願いいたします。

以前にお出しくださった変更希望表に変更が出た場合にも、なるべく早く、ご連絡ください。

◆新時間割をメールでお知らせします

新時間割は、新年度からの担当が、３月２９日(水)または３０日(木)に、主にメールで、皆さまにお知らせします。重要な事柄ですので、ごらんいただけたことを、確認させていただきたいと思っています。メールをごらんになりましたら、お手数ですがごらんになった旨のご返信を、よろしくお願いいたします。

もし、４月２日になっても何も連絡がいかない場合は、何かの手ちがいが起こっているかもしれませんので、お手数ですが、生徒さんのほうから、本部まで、お電話ください。

この期間、ご旅行などでお留守にされる生徒さんは、モバイルのメールアドレスか電話番号を、事前にお知らせください。

ご協力を、重ねてお願い申し上げます。

◆欠席連絡メールをご活用ください

欠席のご連絡が夜や早朝の場合、お電話でお受けすることができません。

ぜひメールでご連絡ください。一音会が使っているメールアドレスは複数ありますが、欠席連絡用アドレスは、下記のものです。別アドレスにメールを頂戴しますと、確認が遅くなってしまうことがありますので、かならず下記のアドレスあてにお願いいたします。

oyasumi_ichionkai@yahoo.co.jp

◆生徒さんのリサイタル情報

３月１９日（日）、一音会生徒さんの稲葉千隼さんが、ソロリサイタルを開きます。

日時　３月１９日（日）　１４：００開場　　１４：３０開演

場所　サロン・テッサラ（三軒茶屋駅より徒歩１分）

くわしいプログラムは、教室内のポスターをごらんください。

リサイタルの成功を、心よりお祈りしています。

◆今年のサクラ

今年も、音楽系の進学を果たされた生徒さんがいらっしゃいます。この場をかりて、お祝いを申し上げます。合格、おめでとうございます！

東京藝術大学附属音楽高等学校　（ピアノ専攻）１名

東京都立総合芸術高等学校　（ピアノ専攻）１名

国立音楽大学　（声楽専攻）　１名

お茶の水女子大学大学院博士前期課程（音楽表現学コース）１名

◆新年度のレッスン開始日

新年度最初のレッスン日は、次のようになります。

月曜日・・・・・・・・・　４月１０日
火曜日・・・・・・・・・　４月１１日
水曜日・・・・・・・・・　４月　５日
木曜日・・・・・・・・・　４月　６日
金曜日・・・・・・・・・　４月　７日

土曜日（毎週）・・・・・４月　８日
土曜日（偶数週）・・・・４月　８日
土曜日（奇数週）・・・・４月１５日

日曜日（月１回）・・・・４月１６日
日曜日（月２回）・・・・４月　９日
日曜日（月３回）・・・・４月　９日

みなさま、良い春休みをお過ごしください。新年度も、引き続き、どうかよろしくお願いたします。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

＊スクールの生徒さんのご質問を、以下の２つの方法で受け付けています。

メール：ichionkai.piano@gmail.com　　電　話：03-3954-9999

＊お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後７時～9 時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

＊ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お１人 10 分を目安とさせていただいています。ご了承ください。